

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0270101728		
法人名	バンドーウエルフェアグループ株式会社		
事業所名	グループホームバンドー青森		
所在地 (電話番号)	〒030-0903 青森県青森市栄町1丁目8-25 (電話) 017-765-2616		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年2月9日	評価確定日	平成22年4月6日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算	10.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての 2階 ~ 3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.8 歳	最低 69 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人芙蓉会 村上病院(内科)、山口歯科医院(歯科)
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>国道から少し入った住宅街に立地し、近隣にはスーパー、理容店、郵便局等もあり、利便性が高い。3階建ての建物は窓が大きくとられ、十分な採光もあり明るい印象を受ける。共有空間には対面式の調理スペースがあり、調理をしながらも利用者の動きが把握できる等、家庭的な雰囲気のある空間となっている。ユニット毎に理念が作成されており、職員は一人ひとりの残存能力を活かした楽しみ、役割等を見つけるよう日々努めており、その関わりの中で職員自身が学び、成長しようとする姿勢が感じられる。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>身体拘束については、マニュアルを作成しており、勉強会を開催するなど、全職員が理解できるよう努めている。職員の育成についても、年間の研修計画が作成され、全体研修や計画以外の勉強会等も積極的に行われている。栄養・水分確保、非常災害対策については、検討はされていたものの改善には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価を行うことで、共通の認識をもって課題に取り組むことができており、改善できるものはすぐに取り組むよう努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に会議を開催し、活動状況や外部評価結果の報告を行い、具体的な改善策が検討されている。他事業所の会議に相互に参加しあう等、お互いの取り組みを理解することで、サービスの質を向上するための機会となっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>職員は家族の面会時に積極的に声をかけ、何でも話しやすい雰囲気や信頼関係を築くよう努めている。意見が出た場合は、解決に向けてのフローチャートに基づき、サービスに反映されるよう取り組んでいる</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>外出の際に挨拶を交わす等、地域住民と日常的に交流を深めるよう努めている。特に近隣の薬局や理容店とは、気軽に立ち寄りできる付き合いがされている。また、町内の活動に参加したり、実習生の受入れを行う等、地域交流に励んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、個人々人を尊重したサービスが提供できるよう、各ユニットごとに理念を作成している。		各ユニットごとに理念は作成されているが、地域密着型の役割を目指した内容には至っていない。見直しを図ることで、地域密着型サービスとしての役割が再認識できる機会を設け、理念の実現に向けて日々の業務に反映されていくことが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホール内や利用者の居室にも掲示されているため、日常的に確認、共有できており、日々実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日常の散歩等、外出の機会に気軽に挨拶を交わし、交流を深めるよう努めている。また、近隣の薬局の薬剤師には、薬のこと以外にも食事についての相談をする等、サービス提供への協力も得られている。公園で行われている朝のラジオ体操に参加したり、実習生の受入れを行う等、地域に開かれた事業所となるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義を理解した上で、半年に1回、全職員が自己評価を行っている。外部評価の結果等もふまえて改善策を検討し、サービス提供につなげるよう努めている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催し、町内会長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員が参加している。出された意見等は議事録にまとめられ、全職員が情報を共有してサービス向上に活かしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の議事録や外部評価結果を提出し、報告を行っている。必要時には相談を行う等の連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する研修に参加し、内容は全職員に伝達されている。必要に応じて制度を活用できるよう体制を整えている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会やカンファレンスの際に話し合いの機会を設けるなど、虐待防止のための取り組みを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者は、契約時にグループホームの役割や重度化した際の対応等について十分な説明を行い、理解・納得が得られるよう努めている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に状態報告を行ったり、遠方の家族には電話や手紙等で日々の暮らしぶりを報告している。金銭管理については出納帳を作成し、毎月家族へ報告し、署名・捺印をもらっている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は家族が意見を話しやすいように面会時等に積極的に声をかけ、信頼関係を築くよう努めている。意見が出た場合は、解決に向けてのフローチャートに基づき、サービスに反映されるよう取り組んでいる。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>原則として職員の異動は行っていない。異動がある際は、十分な引継ぎを行い、利用者への負担が少なくなるよう配慮されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画が作成され、計画的な研修が行われている。計画されているもの以外にも、必要に応じて内部研修や勉強会を開催し、職員の資質向上に努めている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いの事業所の運営推進会議に参加したり、他事業所で行われている音楽療法に参加するなど、相互に交流する機会を設け、サービスの質の向上に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学していただくなど、状態把握を行いながらサービス利用につなげている。馴染みにくい方に対しては、家族の協力を得ながら、職員が密に関わる等の対応を行い、安心して生活できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人らしさ、その人ができることを尊重しながら、常に学ぶ姿勢を持って接しており、その中で職員自身の成長や気づきが得られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の生活歴、希望、意向の確認の他、普段の何気ない会話の中からも思いが把握できるよう努めている。必要に応じて家族や関係者からも情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の思いや意向、各職員や訪問看護職員等の意見を確認し、話し合いをしたうえで介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の評価に加え、3ヶ月毎にアセスメントを行っており、定期的に見直しの機会を設けている。また、日々のミーティング等で状態変化を確認し、必要に応じて随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週1回看護職員の訪問があり、健康管理や医療的助言等を受けている。病院受診が必要な際は、職員が付き添い対応している。散歩や散髪等の日常的な外出も、希望を取り入れ支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を継続している方もいるが、本人の状況等も考慮して、適切な医療を受けられるよう転医するケースもある。その際は、メリット等を十分に説明し、納得が得られるよう努めている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関するケアの指針が作成されており、職員間で共有されている。対応が困難な場合は、医療機関や次の施設への引継ぎ等の支援がなされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録については、目に付きにくいよう配慮されている。話をする際は、声のトーン等にも注意を払い、一人ひとりに合わせた対応をしている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やその日の気分等に応じて、できるだけ自由に過ごすことができるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員は利用者と会話を楽しみながら、一緒に食事をしている。また、できる範囲で準備や片付けを手伝ってもらっている。食材発注の際には、利用者にもチラシを見てもらい、各々食べたい物を注文している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴前にはバイタルチェックを行い、安全に入浴できるよう支援している。週2回が基本となっているが、希望に応じて3回入浴する方やシャワー浴にも随時対応している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりの生活歴を把握し、食事作りや縫い物、掃除等、本人の得意なこと、希望に応じて役割が持てるよう支援している。また、余暇活動(トランプ、時代劇鑑賞等)を取り入れ、日々楽しく過ごせるよう努めている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>近所への買い物や公園までの散歩、植物を眺める等、日々希望に応じた外出支援を行い、心身の活性に繋がるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、内部研修を行う等して知識として正しく理解している。また、ミーティング等でケアを振り返り、身体拘束が行われていない等を点検している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件、建物の構造等、過去に不審者が侵入してきたこともあり、家族の了承を得た上で玄関にのみ鍵をかけている。外出したようなそぶりがあった場合は、その都度声がけ等をして、不安にならないよう対応をしている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員立会いのもと、年2回避難訓練を行っている。町内会や近隣の店舗にも災害時に協力が得られるよう、日頃から呼びかけている。		日勤帯の避難訓練は行われていたが、夜間想定 の避難訓練は実施されていなかった。 少ない人員でも適切な避難誘導が行えるよう、夜間を想定した訓練の実施が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分摂取量が記録され、十分な栄養が確保できるよう努めている。食事内容については近隣の薬局の薬剤師に相談して検討している。		カロリー計算は行われているが専門家による確認や助言は得られていない。 法人内や協力医療機関等の栄養士等へ協力を依頼し、栄養面に関して専門的な意見を得られる体制作りが期待される。
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルが整備され、関連の通知が来た際は逐一周知されている。インフルエンザ予防接種は全員実施しており、外出時にはマスクを着用する等徹底されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間にはソファ - やテーブル席があり、また、温度や湿度が定時に確認され、快適に過ごせる環境となるよう配慮されている。利用者の作った季節の飾りや行事の写真も掲示されており、それらを見ながら思い出を語ったりできる交流スペースにもなっている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に使っていた家具や仏壇等を居室に配置しており、壁には各々の写真や作品を飾る等、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>		

 は、重点項目。